

中学校区におけるめざす子ども像
自らの課題に気づき、学び続ける子

令和7年度 重点目標
自ら学びを進める子ども育成 ～そのために必要な、授業改善、心身の健康、環境づくり、人権教育とは～

「確かな学び」の現状
令和6年学習状況調査では、算数・国語とも堺市・全国平均を上回るなど、これまでの成果がみられる。しかし、学びへの興味・関心については高いとは言えず、自ら進んで学ぶことや、学んだ結果として生まれる社会的参画力に課題があると考えられる。

「豊かな心・健やかな体」の現状
本校児童は体力・筋力は全国平均を上回るが、瞬発力や柔軟性に課題が見られる。また、運動が好きだと感じている児童の割合は全国平均を下回るが、一週間あたりの運動量は多い。このことから、運動はしているが、自ら進んで楽しいと感じて運動している児童は限られていると言える。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況 (年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	学力の向上 授業改善	自ら学びを進める”とは何か、どのような姿が“自ら学びを進める”姿なのか、“自ら学びを進める”ために必要なことは何なのか等にこだわって授業研究や生活指導に取り組んでももらいたい。そのことが結果として学力向上や学びのコンパスにつながっていくと考える。	○児童用タブレットの効果的な活用 学習での活用法を研究し、研修等を実施ながら効果的に実践をめざす。	・タブレットの活用内容と新しい使い方の開発 ・タブレット使用法の交流回数	学級、学年での交流とチェック	11月と2月	A	毎月ICT研修を行い、タブレットの効果的な活用方法について職員に伝達する会を設けている。	A	職員内での年度末評価においても、ICTの活用および研修の持ち方について肯定的な回答を得られた。	A	教職員の中でもICTの意識が高まっているのを感じる機会があった。これからも進めてほしい。
			○子ども自ら学ぶ機会の設定 自主学習や総合的な学習などの中で子ども自身が、学ぶ内容や順番を決め、学び方や表現方法を選択できる機会を設定することで、主体的に学ぶ子どもの育成をめざす。	・交流方法の研究と実施頻度	校内研修を中心とした交流とチェック	適宜	A	年6回の研究授業を実施。また、研修テーマに対する各職員の実践を毎月ふりかえりシートに記入し、それをもとによりよい指導法について交流している。特に良い取り組みを職員会議でも取り上げ、周知している。	A	研究授業、毎月の実践のふりかえり、職員会議での良い実践の周知などを続けていくことで、子どもが自ら学ぶ機会を設定することや、職員内で活発な実践交流をすることができた。	A	今後も子どもたちがおもしろいと思う授業づくりに努めてもらいたい。
			●自ら学びを進める子どもの育成 “自ら学びを進める”とは何か、どのような姿が“自ら学びを進める”姿なのか、“自ら学びを進める”ために必要なことは何なのか等にこだわって授業研究や生活指導に取り組んでももらいたい。そのことが結果として学力向上や学びのコンパスにつながっていくと考える。	・探究的に学ぶプロセスの図をもとに具体的な子どもの姿から判断する ・ノート、ワークシート、発表などの記述	授業での観察 討議会でのふりかえり	11月と2月	B	以上のような取り組みを続けていく中で、子どもが自らの課題に気づき、学びを進めるための授業を教職員全体で実施しているが、まだまだ発展途上であり、引き続き指導を続けていく。	B	今年は「自ら学びを進める子どもの育成」が研修テーマとなり1年目であり、上記の通り職員一丸となってさまざまな指導を続けていくことで、子どもが自ら学ぶための素地を育むことができた。来年度は、この素地をもとにさらに子どもが自ら学ぶ力を高めていけるよう、学力調査の分析をもとにしながら指導を続けていく。	B	本を読むことが大事だと思う。本に向き合える子は自分の学びを進めていくことができると思う。さまざまなデータを参考にしながら取り組んでほしい。
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	子どものよさを引き出す学習を構成し、自己肯定感を育成するとともに、他者理解を行い、いじめのない信頼される人間関係づくりを構築する。	○挨拶指導の徹底 教師から積極的に児童に挨拶していくことを意識させる。 挨拶の大切さを挨拶運動やクラスでも指導をしていく。	・あいさつの大切さについての指導の取組の充実 ・児童会等による新しい発想の取組とその回数	委員会活動の実施状況 学級での実態調査 アンケート	11月と2月	B	児童を対象にした9月のアンケートでは、「友達や先生たちに自分からあいさつしている」の項目において肯定的な意見が9割を超えた。今後児童会を中心に、学校全体であいさつを広げる取り組みを考えていく。	B	あいさつの大切さを職員、児童ともに意識できているように感じている。新たな取り組みはなかったが、児童会から率先して挨拶運動行ったり、啓発の放送をしたりしようという提案があった。	B	元気に挨拶ができるのは良いところ。高学年が良く挨拶している。
			●居心地の良い集団作り 誰一人として阻害されることのない芯のすわった集団作りを行う。その方法として子どもが自己存在感を感じられるような集団作りをめざす。	・いじめアンケートの実施により、継続的な支援を行う。 ・協働的な学びの一要素として集団作りも位置づけて積極的に推進する。	いじめアンケートによる点検と交流 協働的な集団作りの実施回数	いじめアンケートともに毎学期実施 (年3回)	B	いじめアンケートの結果を学年で共有するとともに、毎月いじめや不登校についての共有会議を行っている。きょうだい学年で実態に合わせた交流を適宜行っている。	B	年3回のアンケートを実施した。未然防止はもちろんのこと、積極的認知を意識してもらうことで、早期発見につなげることができた。共有会議を毎月開き、次年度に向けての引継ぎ事項をまとめている。各ペア学年で、年3回以上の交流機会を設けることができた。	B	やんちゃなことをしている場面を見かけたことがある。今後とも継続的な指導と取り組みをお願いしたい。
	体力向上	身体を動かすことが好きになるとともに、これからの時代を生き抜く体力を養う。	○生涯にわたる心身の健康・増進のため身体を動かすことが好きになる取組の推進 体育の授業を中心とした体力づくりをより積極的に取り組む。	・なわとび、サーキット、運動領域別トレーニングの継続的实施	がんばりカード、振り返りカード 学校アンケート	11月と2月	B	体力向上のために、体育の授業の中で、秋から全クラスなわとびとマラソンに取り組みだした。冬の寒い時期に運動する楽しさを伝えるために「日置荘逃走中」を企画している。	B	マラソンでは、走る量が少しずつ増えてきた。子どもたちは、縄跳びでも連続で飛べる回数が増え、体力がついてきたと実感していた。「日置荘逃走中」では、普段は外に出ない子も参加し、みんなで体を動かした。	B	知力、体力、徳育が大事だと思っている。その中で体力向上にも努めてもらいたいが、運動の機会がどんどん限られている現状もある。
			○清掃指導の徹底 清掃指導の充実と徹底をねらいとして、掃除と昼休みの時間を変更した。掃除のやり方を指導した上で、静謐な学習環境につながる基盤をつくる。	・役割分担等の明確度合と徹底度 ・清掃について、子どものふりかえりで充実度の分析	子どもの振り返り 委員会活動	11月と2月	B	学期ごとに清掃週間を設定し、児童自らの清掃の内容について振り返っている。年間継続して結果の分析をすすめることで、今後の課題を確認したい。	A	振り返りアンケートでは、多くの項目で達成できたという回答がえられた。多くの児童が掃除に前向きに取り組むことができていく。来年度は、この定着を清掃週間だけでなく、より日々の清掃時間へ意識させていきたいという提案があった。	A	寺子屋でもまずは掃除が基本であるように、基本動作を身につけて正しいやり方を覚える必要がある。学習に気持ちよくむかうことができるように清掃活動に取り組んでほしい。
人権教育の推進	自尊感情の醸成 他者理解と	さまざまな人権の取り組みをもとに人権教育を推進する。	●自尊感情の醸成につながる人権教育の推進 障害や特性を持つ子どもだけでなく、一人ひとりの自尊感情を育てる教育を継続して取り組む。	・実施教材数や確保した実施時間数 ・子どもの感想などによる変容	学校全体や各学年での振り返り	毎学期の計画と検証 及び 11月と2月	B	平和学習などの取り組みで学年やクラスに応じて実施している。学年に応じて、出前授業などで様々な人との出会いの場を確保している。	B	各学年、実態に応じて人権教育を行った。個人と集団をつなぐために様々な取り組みをしている。また、出前授業やゲストティーチャーも積極的に活用し出会いの場を確保していた。	B	人権の学習はとても大事。大人になったら人権の学習をする機会が少なくなるので、小学校のうちしっかりと取り組んでもらいたい。

校長より (年度末) 各学年それぞれにさまざまな課題があったが、全教職員一丸となって向き合うことができた。成果がみられている面と、引き続き課題となる面があるが、今後とも粘り強く取り組んでいきたい。次年度は子どもの学力に向けてさまざまな面から取り組んでいきたいと考えている。学力の向上には、確かな学び、豊かな心、健やかな体、教室環境整備、人権教育のすべてが必要である。多面的、多角的に子どもたちの成長に向けて関わっていくことができるようにしたいと考えている。

学校関係者評価者から (年度末) 基本的には全力でやってくれていると思う。先生方は、抱え込まずにがんばってほしい。